

小・中学校

平成 17 年 度

教育研究員研究報告書

教 育 課 題

東京都教職員研修センター

目 次

I	主題設定の理由及び研究の構想	
1	主題設定の理由	2
2	研究の仮説	2
3	研究の構想図	3
II	調査の内容とまとめ	
1	目的	4
2	方法	4
3	対象及び調査人数	4
4	調査結果	4
5	まとめ	6
III	A分科会の研究内容	7
1	検証授業	
	事例1 中学校第1学年 数学	8
	事例2 小学校第3学年 体育	1 1
2	A分科会 その他の実践事例	1 4
IV	B分科会の研究内容	1 5
1	検証授業	
	事例1 小学校第3学年 特別活動(学級活動)	1 6
	事例2 小学校第6学年 特別活動(学級活動)	1 8
	事例3 中学校第1学年 特別活動(朝 の 会)	2 0
2	B分科会 その他の実践事例	2 2
V	研究事後調査	
	調査結果	2 3
VI	研究のまとめ	
1	研究の成果	2 4
2	今後の課題	2 4

研究主題 児童・生徒の自己肯定感をはぐくむ指導の工夫

I 主題設定の理由および研究の構想

1 主題設定の理由

子どもたちにとって、本当の豊かさとは何だろうか。物質的に豊かな現在、子どもたちは多くの物や情報を手に入れることができる。しかし、精神的な豊かさについてはどうだろうか。

子どもたちの中には「自分を大切に思えない。」「自信がない。」「得意なことがない。」などの気持ちをもっている子が少なくない。また、友達や周りの人に対しては、相手を傷つける言葉を発したり、行動をとったりしてしまう。一方で、自らは相手の言葉や行動に過敏に反応し、気に病んだりする。

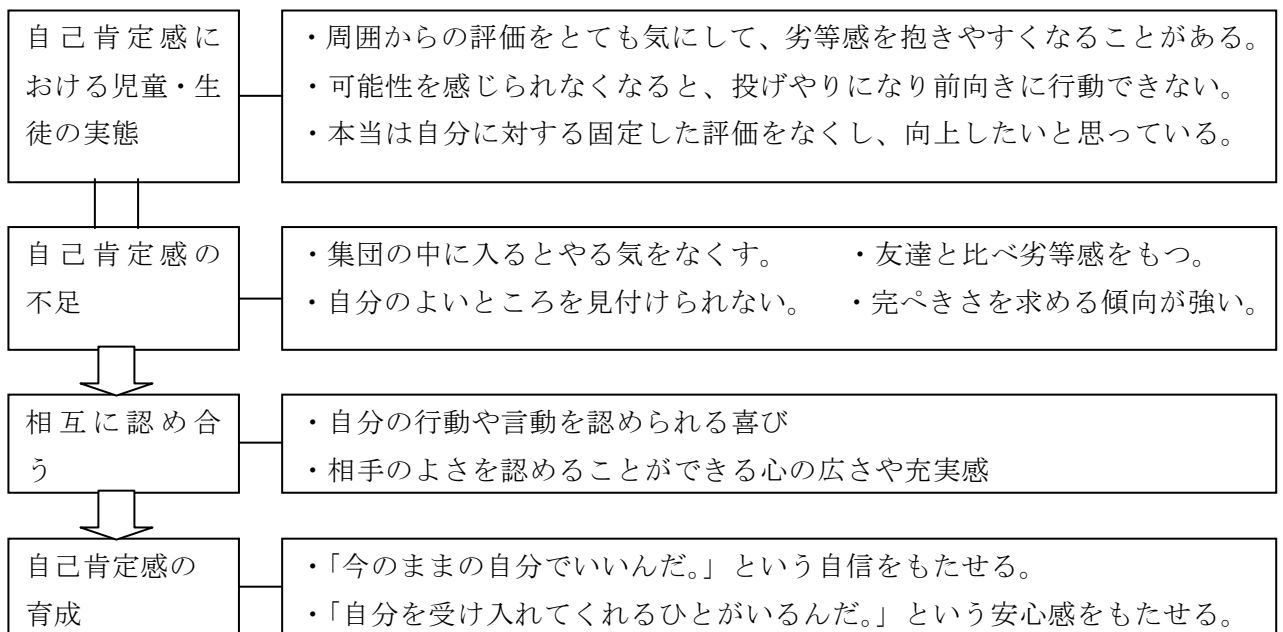
これは、「今のままの自分でいいんだ。」「自分を受け入れてくれる存在がいるんだ。」という自己肯定感をどれだけもっているかに関係するのではないだろうか、と考えた。そこで、自己肯定感の育成を通して、個に応じた指導の一層の充実を図ることとし、研究主題を「児童・生徒の自己肯定感をはぐくむ指導の工夫」と設定した。

また、本部会においては自己肯定感を「今のままの自分でいいんだ、という自己を肯定、信頼する感覚」と定義した。

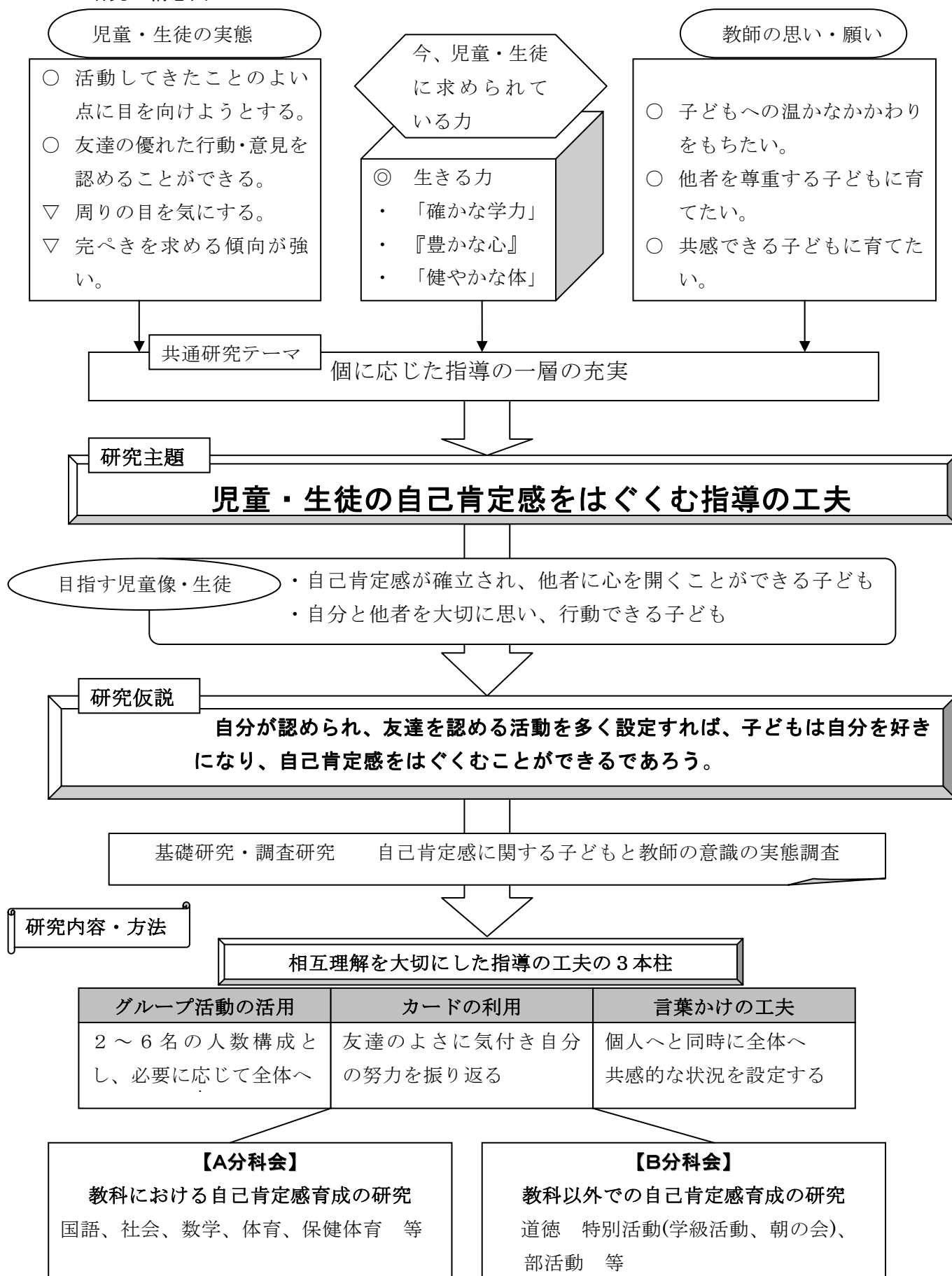
2 研究の仮説

研究主題を踏まえ、自分を大切に感じるには、互いを認め合うことが大切と考え、本研究では以下のように仮説を立てた。

自分が認められ、友達を認める活動を多く設定すれば、子どもは自分を好きになり、自己肯定感をはぐくむことができるであろう。



3 研究の構想図



Ⅱ 調査の内容とまとめ

1 目的

本研究を進めるにあたり、次の２点の調査をすることにより、「自己肯定感」をはぐくむ手だてを探ることができるであろうと考えた。

- (1) 自己肯定感等に関する子どもの意識
- (2) 自己肯定感等に関する教師と子どもの意識の隔たり

2 方法

６項目の質問を設定した。（うち質問２～質問５までは複数選択可とした）

3 対象及び調査人数

教育研究員所属校に在籍する児童・生徒及び小・中学校教員。

小学校児童及び中学校生徒 計４９２名。 小学校教員及び中学校教員 計１６９名。

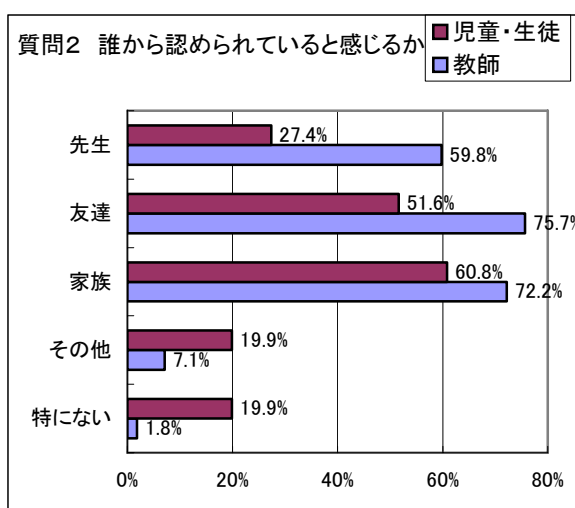
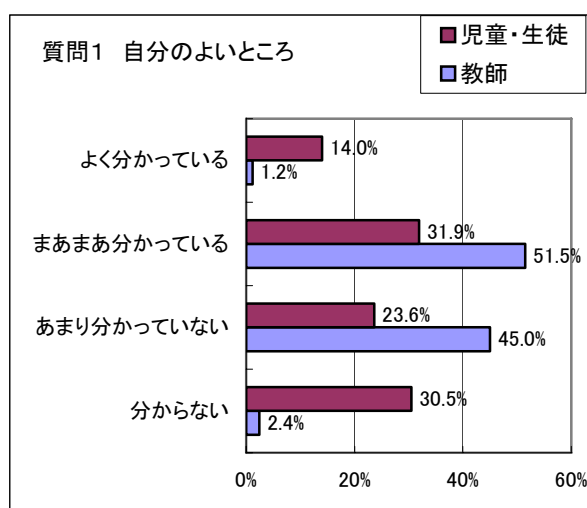
4 調査結果（各質問とも、上段○は児童・生徒向け、下段□は教師向けの質問）

質問１○あなたは自分のよいところを分かっていますか。

□子どもは自分のよいところを分かっていると思いますか。

質問２○あなたは誰から「認められている」と感じますか。

□子どもは誰から「認められている」と感じていると思いますか。



質問１に関して：児童・生徒は自分のよいところが「分らない」が 30.5%あり、他の質問項目より高い数値を示している。教師は児童・生徒の半数は「まあまあ分かっている」ととらえ、自分のよいところが「分らない」児童・生徒は少ないと考えていることが分かる。

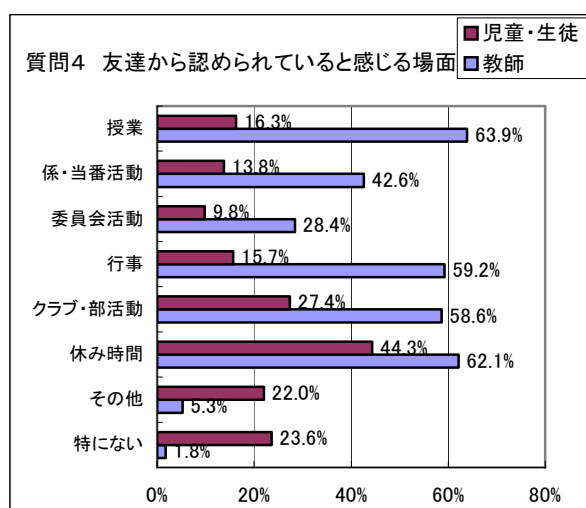
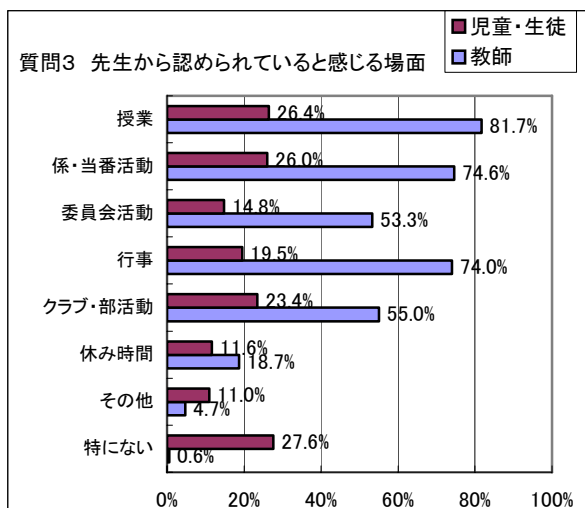
質問２に関して：児童・生徒の「家族・友達」の数値は高くなっているが、それに対し、「先生」から認められていると感じている児童・生徒の割合は低い数値になっている。また、「誰からも認められていない」と感じている児童・生徒の割合は教師の考えとの差が大きい。

質問３○あなたが先生から「認められている」と感じるのはどんな場面ですか。

□子どもが教師から「認められている」と感じるのはどんな場面だと思いますか。

質問４○あなたが友達から「認められている」と感じるのはどんな場面ですか。

□子どもが友達から「認められている」と感じるのはどんな場面だと思いますか。



質問3に関して：児童・生徒、教師ともに「授業」「係・当番活動」が高い数値になっている。「特になし」と感じている児童・生徒の割合が27.6%と、他の質問よりも大きくなっている。

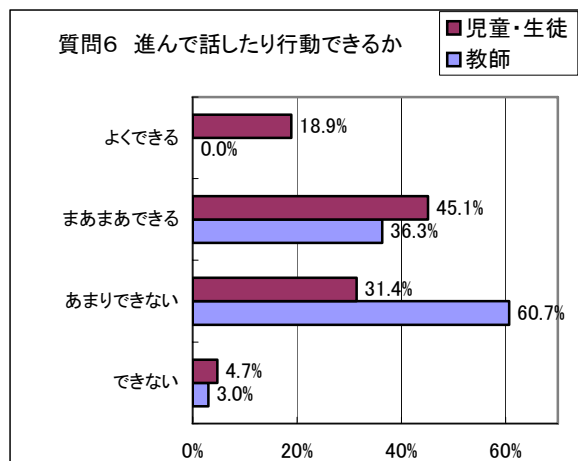
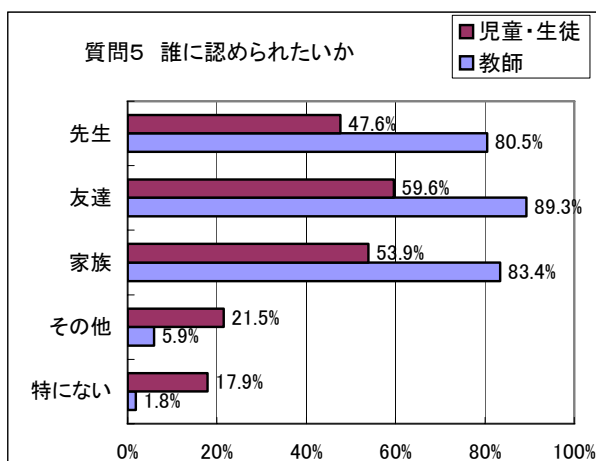
質問4に関して：児童・生徒では「休み時間」の数値が44.3%と一番高くなっているが、教師が考えているのは「授業」の場面であることが分かる。児童・生徒は、「特になし」と感じている場面が23.6%と3番目に高い数値になっている。

質問5 あなたは誰に認められたいですか。

☐ 子どもは誰に認められたいと願っていると思いますか。

質問6 あなたは皆の前で自分の思っていることを進んで話したり行動したりできますか。

☐ 子どもは他の子どもの前で、自分の思っていることを進んで話したり行動したりできていると思いますか。



質問5に関して：「認められたい」と考えている対象者の順位に児童・生徒と教師の間には大きな隔たりはない。「先生に認められたい」と考える生徒の割合は「友達」「家族」に比べてやや低く、「特になし」と考えている生徒の数値は教師の考えに比べて高いことが分かる。

質問6に関して：児童・生徒は、意思表示が「できる」と考えている者が多いが（よくできる18.9% まあまあできる45.1%）。教師はそうにはとらえていないことが分かる。

5 まとめ

(1) 児童・生徒の意識

ア 自分のよいところが分かっている子どもと分からない子どもの分析は以下のとおりである。

【自分のよいところが分かっている子ども】

「優しさ」「明るさ」「思いやり」など性格や人とのかかわりに関することに目を向けている。全学年に共通する結果である。また、学年が下がるほど、自分のよさについて複数の記述をする。得意なことを自分のよさにとらえている傾向も低学年で高い。

【自分のよいところが分からない子ども】

学年が上がるにつれ、「分からない」と答える子どもが多い。また、下のイヤウのような傾向も見られる。

イ 誰からも認められていないと感じている子どもは、特に認められたいとも感じていない傾向がある。

ウ 進んで話したり行動したりできない、という理由で最も多いのは「恥ずかしい」「緊張する」である。また、「変に思われたくない」「自分の意見が間違っているかもしれない」という不安感を挙げている子どもも多く、周囲の反応を気にしていることが分かる。

(2) 児童・生徒と教師の意識の隔たり

ア 「自分のよいところ」の気付き

自分のよさが分からないと答えた子どもが 30%を越えている。これに対し教師は、自分のよさが分からないと答える子どもはほとんどいないだろうと考えている。教師は、子どもの自分のよさへの気付きについて、やや楽観的にとらえていることが分かる。

イ 教師が子どもを認める場面

教師は、より多くの子どもを励ましたり褒めたりしようと努力する。しかし、「教師に認められている場面は特にない」と感じている子どもが 25%を越えている。教師の言葉や気持ちが子どもに伝わりにくくなっている。教師の働きかけの具体策が必要である。

ウ 誰に認められているか、また認められたいか

「友達」が「教師」を上回り、学校生活において友達の大いなる存在を表しているが、その一方で「特にない」と答えた子どもも 20%近くいる。教師は「特にない」と思っている子どもは少ないだろうと考えている。教師が子どもの実態を正確に把握できていないことが分かる。

エ 進んで話したり行動したりすること

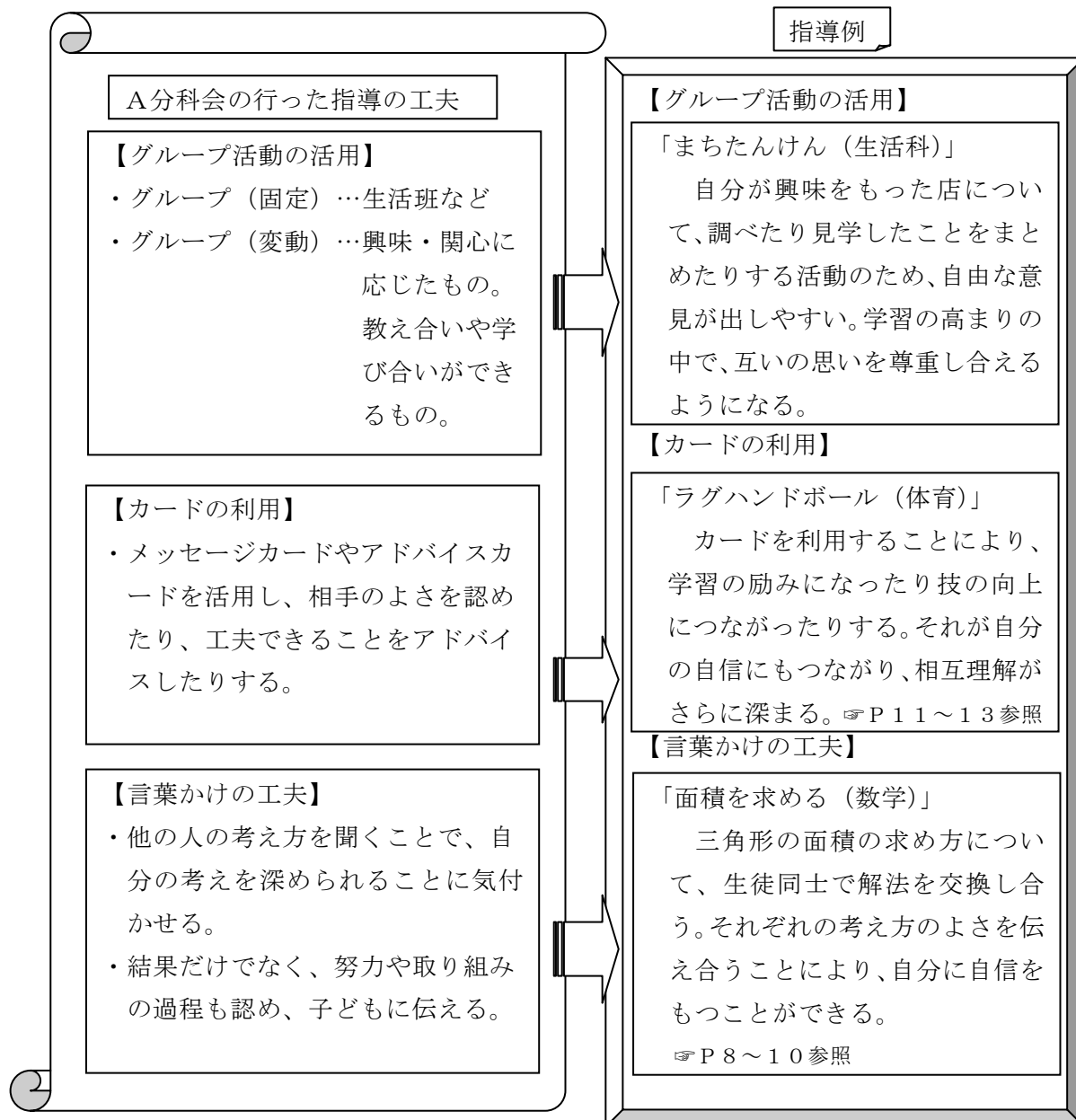
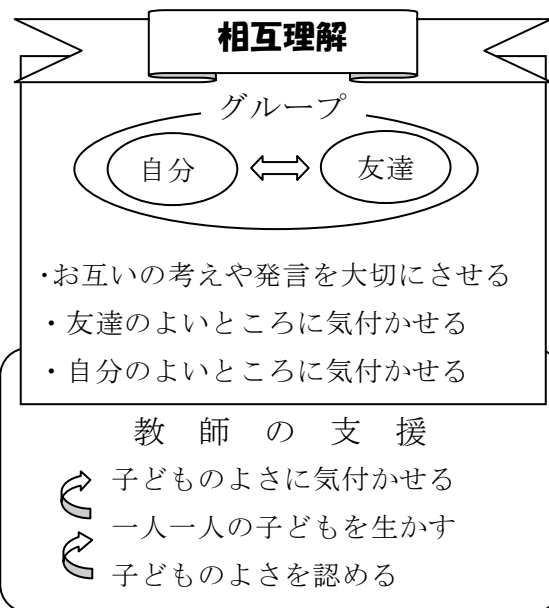
教師が「あまりできていない」と、とらえているのに対し、子どもは自分の表現力に対しておおむね満足している。教師の評価と子どもの自己評価の間に差が見られる。

「自分のよいところが分からない」「誰からも認められていない」「誰からも認められなくてもよい」と 答えた子どもが、教師の予想をはるかに上回っている。子どもが自分の存在や他者とのつながりを感じることができるような指導の手だてが必要である。

Ⅲ A分科会の研究内容

自己肯定感をはぐくむためには、子どもたちがお互いの考えや発言を大切にしながら、自分や友達のよいところに気付くことが大切である。

そのために教師が行うべき支援は、教師がまず、子どものよさを認め、一人一人の子どもを生かした学級経営や授業を行い、子ども自身が自分や友達のよさに気付くようにすることであると考え、研究を進めた。



1 検証授業

事例1 中学校第1学年 数学

(1) 単元名 「比例と反比例」

(2) 本時のねらい（16時間扱いの単元の5時間目「座標を用いた面積の求め方」）

ア 教科としてのねらい

点と点を結んでできる図形的面積を、座標を利用して求めることができる。

イ 自己肯定感の育成のためのねらい

お互いの考えを伝えることで、互いに分かり合い、認め合い、自分に自信をもたせる。

(3) 指導の工夫

ア グループ活動の活用

- ・グループ内でお互いの考えを伝える場面を設定する。
- ・グループ内で自分の解法を発表することにより、各自の考え方のよさを知る。

イ カードの利用

- ・ワークシートにお互いの考えを伝える欄を設定する。
- ・自己評価カードを活用し、自己肯定感の低い生徒への指導を行う。

ウ 言葉かけの工夫

- ・いろいろな考え方を認め、生徒に自信をもたせるような教師からの言葉かけを行う。
- ・他の生徒を認めるコメントの工夫を呼びかける。

(4) 指導の展開（50分）

	学習活動	自己肯定感育成の活動	留意点・工夫
導入 10分	本時の目標の把握 問1 3点A、B、Cを頂点とする三角形の面積を求める。 <u>直感的に三角形から予想する。</u> ・底辺と高さを調べ求める。 <u>別解を考える。</u> ・三角形を2つに分割する。 ・長方形から求める。	・問題を解けそうだという気持ちになる。 【意欲の向上】 ・別解を発表させ、いろいろな考えの人がいることを認める。 【受容】	・具体的に提示し、問題をつかませる。 ・いろいろな求め方を考えさせ、発表させる。
	問2の問題に取り組む。 <u>問1を利用して考える。</u> ・底辺と高さを調べ求める。 ・三角形を2つに分割する。 ・長方形から求める。 <u>他の人の解き方を読み取る。</u> ・補助線の使い方を工夫する。 ・長方形や台形から求める。	・相手に自分の求め方が伝わるように記述する。 【自己表現】	・机間指導で個別指導を行う。

	問3の問題も同様に取り組む。	他の生徒の求め方を読み取り、考え方を共感させ、相手のよい所を伝える。 【共感】	求め方が理解できない場合には、質問し、理解を深めさせる。
まとめ 10分	良い部分を記入する。 - いろいろな求め方の発見につなげる。 一般化する。 - 一般化できることを知らせる。 - 学習内容をまとめ、求め方の確認をする。	- グループ毎にワークシートを回覧し、良い部分を伝える。【表現】 - 他の人の助言から自分の考えをまとめる。 【自己評価】 - 解けたことが偶然かもしれないと考えている生徒の意見も取り上げ、そのよさを皆で共有する。【共感】	- 一人一人の考え方を認める。 - まとめをする。

(5) 考察

ア グループ活動の活用について

- 従来の一斉授業の解法説明場面をグループ活動に置き換え、友達の解法を読み取り、話しあうことにより、すべての生徒が自分の考えを友達に伝えることができた。グループ内で交流して求め合い、伝え合うことは、授業の前半部分からグループ活動を取り入れるとさらに効果があると考えられる。
- お互いの考えを説明する機会を増やすことにより、自己肯定感が確実に育成されることが分かった。

イ カードの利用について

- カードになかなかコメントなどを書けない生徒への周りの生徒からの支援があった。また、友達のコメントから自分の考えを振り返り、自己評価を行う時間を十分にとると効果が上がる。
- 相手のことを褒めるだけでなく、自分なりの考えを伝え、書いてもらったコメントを発表する場を設定する必要がある。このことで、他にも同じような友達がいることを知り、自分に対する自信が生まれる。



ウ 言葉かけの工夫について

- 一人一人の考えを大切にし、多様な考えの人を認める言葉かけが自己肯定感につながった。また、生徒間で言葉を交わすことにより、お互いを理解し合い、共感が生まれた。
- 自己肯定感がなかなか高まらない生徒には、教師からの継続的な指導が必要である。

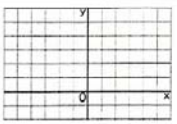
(6) 資料

【ワークシート】

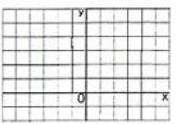
ワークシート 1年 組 氏名

1、3点A(2, 4)、B(-3, 0)、C(5, 0)を頂点とする三角形ABCの面積を求めよ。

(求め方1)

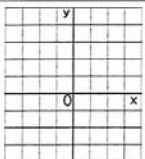


(求め方2)

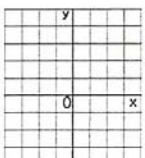


2、3点A(2, 4)、B(-3, 0)、C(-1, -2)を頂点とする三角形ABCの面積を求めよ。

(求め方1)

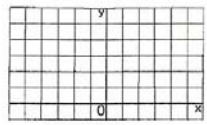


(求め方2)

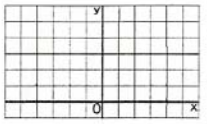


3、3点A(2, 4)、B(-1, 2)、C(0, 0)を頂点とする三角形ABCの面積を求めよ。

(求め方1)



(求め方2)



求め方のよい部分や気づいた部分を伝えよう。

()	()	()
-----	-----	-----

他の人のコメントを読んで自分の気持ちや考えをまとめよう。

【生徒のコメント例と自己評価例】

求め方のよい部分を伝えよう。

いろいろな考え方を書いていて、面白いなと思いました。 人の考えも、ちゃんと書いてあるのがいいなです。	色をつかっていたし、考え方がわかりやすくまとめてあったのでいいと思います。	とてもいいねいな字です。
()	()	()

他の人のコメントを読んで自分の気持ちや考えをまとめよう。

今回他の人のプリントを見て他の書きかたがよくわかったので、
↑上に書いてるのと他の人のを参考にして、もっと見やすくしていきたいです。

求め方のよい部分を伝えよう。

矢張りしをかいていたのがいいと思う。それに2つの考え方が場からわかりやすい	全体的に詳しく色も使っていて分かりやすいと思った。	先生の言った事をちゃんと書いてたのでよかったです。
()	()	()

他の人のコメントを読んで自分の気持ちや考えをまとめよう。

自分で「私は分かりにくい」と思っていたのに、他の人から分かりやすいと思われるとは思っていませんでした。少し他の人の事も分かったのがよかったです。

事例2 小学校第3学年 体育

- (1) 単元名 ゲーム「ラグハンドボール」
(2) 本時のねらい (7時間扱いの単元の5時間目)

ア 教科としてのねらい

- ・基本的な投げ方を身に付け、ボールを力強く投げることができる。
- ・ルールを守り、仲良くゲームを行い、勝敗を素直に認めることができるようにする。
- ・チームのめあてをもち、ルールや作戦や活動の場を工夫することができる。

イ 自己肯定感育成のためのねらい

- ・チームで教え合ったり、作戦に取り組みせたりすることで、友だちとの関わり合いが深まり、よさの認め合いが多くなる。
- ・それぞれが考えた作戦がチームの勝利に生かされる経験をもつことで自分に自信をもたせる。

(3) 指導の工夫

ア グループ活動の活用

- ・チームの勝利に向けて、協力し合って作戦を考えたり、作戦を生かすための練習に取り組ませる。

イ カードの利用

- ・学習カードにグループの友達のよさを書き、伝え合わせる。体育ノートに自分の思いや願いを書きこめるようにする。

ウ 言葉かけの工夫

- ・友だちのよさを発見できるようにそれぞれの場面で見つけたことを伝え合わせる。

(4) 授業の実際

ラグハンドボール、はじめのルール

- ・ 1チーム 5～6人
- ・ 開始は、ジャンプボール
- ・ 得点が入ったら、相手キーパーボール
(得点したチームはセンターラインまで下がる)
- ・ 乱暴なプレーはその場から相手チームのボール

「的当て君をやっつける大会」で基本的な投げる技能の向上、記録の伸びによる達成感を養う。



チームで一人一人のよさを見つけていくパワーアップタイム(次の試合に向けての振り返りや作戦を生かす練習を行うチームの時間。)



チームのめあてに向かって、取り組む。
ゲームの中で友だちのよさを伝えあう。



チームのふりかえりの時間。
友だちのよさを伝えあい、学習カードに記録する。

(5) 指導の展開

	学 習 活 動	自己肯定感育成の活動	留意点・工夫
導入 10分	1 学習内容、チームのめあて、 ルールの確認をする。 2 準備運動をする。 3 「的当て君をやっつけろ！」 大会をする。	・チームのめあてをチームで確認し、みんなでめあての達成に向けて取り組む意欲をもつ。 【意欲の向上】 ・チームの友達と協力して的にボールを当て、的を動かす。 【協力】	・チームのめあてが一人一人のめあての集合体となるように意識して、めあてを立てさせる。 ・投げる力や投げ方が向上している児童を褒め、達成感、満足感が得られるようにする。 ・褒めることで、友達のよさに気付かせるようにする。
展開 30分	4 ラグハンドゲーム 1 をする。 5 P. U. T (パワーアップタイム：作戦会議やチームの練習の時間) 6 ラグハンドゲーム 2 をする	・チームの勝利に向かって協力してゲームに取り組む。 【協力】 ・友達のよかったところを話し合い、2 試合目に向けて、よさが生かせるような作戦を考える。 【相互理解】【協力】 ・作戦を生かすための練習に取り組む。【協力】	・めあてが何かを再度確認させ、その達成に向かって気持ちを一つにさせるようにする。 ・良さがなかなか見付からないチームには、教師の方で見付けたよさを伝え、見付けるきっかけとなるようにする。
まとめ 5分	7 整理運動をする。 8 本時の振り返りをする。 ・チームごとにチームカードに記入する。	・今日の学習を振り返り、お互いに見付けたよさを伝え合う。 【相互理解】 ・見付けたよさをチームカードに記録する。【他者理解】 ・今日の振り返りを体育ノートに記録する。【自己評価】	・よさがなかなか見付からないときは教師が見付けたよさを伝え、見付けるきっかけとし、よさの伝え合いが活発に行われるようにする。 ・自由記述の欄も設け、思ったことや感じたことを書かせるようにする。

(6) 考察

ア グループ活動の利用について

メンバーそれぞれのよさを生かしながら、チームのめあてを考え、協力して取り組む活動を行った。チームの話し合いが活発に行われ、関わり合う姿が多く見られた。

イ カードの利用について

チームカードの中に「友達のよいプレーを見付けよう」の欄を設けたことにより、友達のよさを見付けようとする姿勢が高まった。技能だけでなく、友達からの言葉や、やさしい態度についても記入され、よさの認め合いに効果的であった。

ウ 言葉かけの工夫について

「〇〇さんはいいアドバイスができているね。」「今のパスが得点につながったね。」など、まず教師が伝えることで、子どもたちの中に同じような言葉かけの輪が広まり、よさの伝え合い、見付け合いが活発に行われるようになった。

(7) 学習カード

チームのめあて、今日の作戦や作戦名をみんなで考えることでチームへの所属感が高まる。

学習の振り返りをチーム全員で行うことで、チームの一体感が養われる。

「友だちのよいプレーを見付けよう」に記入することにより、積極的によさを見付けようとする態度が高まる。

ラグビーボール

チームのめあて
パスをみんなにまわす

<今日の作戦> **左右前後 だまし作せん**

<ゲームの結果>

ゲーム①	相手(オレンジ)	5 対 0	(勝・負・分)
ゲーム②	相手(青)	3 対 1	(勝・負・分)

<今日の学習をふり返ってみよう> よくできた◎ できた○ もう少し△

力強くボールを投げることができましたか。	◎
ルールを守って、楽しくゲームができましたか。	○
パワーアップタイムがゲームに役立ちましたか。	○
チームのめあては達成できましたか。	◎

★友だちのよいプレーを見付けよう★

名前	よかったプレー
Aさん	さんぽ、みんなに、パスをまわしてた。
Bさん	みんなパスをまわして、とてもよかった。
Cさん	た。
Dさん	強くボールを投げたところ、よかった。
Eさん	キーパーがとてもうまい。

よくパスがまわっていたね、いいシュートもたくさんあったね。

<自分たちに合ったルールを作ろう！>

こんなルールがあったらいいな...

○パスの回数は、なし。

○パスは、しない。

○パスも受け、もつて、前のように入っていく。

○ゴールキーパーは、パスをいれない。

体育ノート

11月9日(木) 3年組()

★自分に当てはまるものに○をつけよう。

1 今日、今日の体育の学習は楽しかったですか。	(はい) (いいえ) (どちらでもない)
2 全力をつくして学習できましたか。	(はい) (いいえ) (どちらでもない)
3 今日の学習は、自分の力に合っていましたか。	(はい) (いいえ) (どちらでもない)
4 強く心に強く響くことや感動することがありましたか。	(はい) (いいえ) (どちらでもない)
5 「あったかった!」とか「あっそうか!」と思ったことがありましたか。	(はい) (いいえ) (どちらでもない)
6 じゅぎょうのやくをきちんとまもれましたか。	(はい) (いいえ) (どちらでもない)
7 自分から進んで学習できましたか。	(はい) (いいえ) (どちらでもない)
8 チームのめあてにむかって取り組めましたか。	(はい) (いいえ) (どちらでもない)
9 思わずはくしたり「ワー」とか声をあげたりすることがありましたか。	(はい) (いいえ) (どちらでもない)
10 友達とおたがいがいぬえたり助けたりできましたか。	(はい) (いいえ) (どちらでもない)
11 友達と協力して仲よく学習できましたか。	(はい) (いいえ) (どちらでもない)

感想

みんなが、パスをしてくれて、まじか。ちやうでも「ドンマイ。」といってくれました。それは前よりも、あーな、なげられて、いるね。」といってくれました。パスを、いいてきたので、よかったです。

次の時間ががんばりたいこと

もっといっばい、うけとて、うけたいです。みんなにもっといっばい、パスをしたいて、あ。

「体育ノート」で個人の振り返りを行う。一人一人の思いや願いを書き込む自由記述欄を設け、一人一人の思いを大切にできるようにした。



2 A分科会 その他の実践事例

グループ活動の活用

【小学生生活】（2年・まちたんけん）

調べたい店ごとにグループを編成した。仲間意識が強まり、学習内容も深まった。

【小学国語】（6年・書写）

2～4人の活動を取り入れることにより、互いの意見を言いやすくなり、相手の意見を真剣に聞こうとする様子が見られた。

【中学保健体育】（1年・マット運動）

技能が偏らないような班編成し、その中で2人1組を作った。お互いにアドバイスし合い、補助を行いやすかった。

【中学社会】（2年・歴史）

興味関心を共有している3名を探しグループを決める。好きな歴史上の人物を共有した喜びをもたせることができた。

カードの利用

【小学体育】（2年・跳び箱）

跳び箱で、相互評価カードを使用し、相手を褒める言葉を書かせた。苦手意識のある児童も一生懸命取り組むことができた。

【小学体育】（6年・陸上）

学習の振り返りの際に、カードを使うことで友達や自分のよさや頑張りについて考える習慣を身に付けさせた。

【中学保健体育】（1年・マット運動）

自分の取組や、ペアや班員の取り組みについて書かせた。発表することで、相手への共感や自分の取組への安心感を得させることができた。

【中学社会】（2年・歴史）

発表・質問・回答など、一人一役を分担することにより、「自分も役に立っているのだ」という自己有用感をもたせることができた。

言葉かけの工夫

【小学体育】（2年・鉄棒）

教師が頑張りを認めるような言葉かけを心がけると、失敗を恐れずに何にでも挑戦しよう、楽しもうとする態度が育成された。

【小学社会】（6年・歴史）

「同じ考えの人はいますか」などと問いかけることで、同じ考えの人がいることに安心感をもったり、ユニークな考えに気付いたりすることができた。

【中学保健体育】（1年・マット運動）

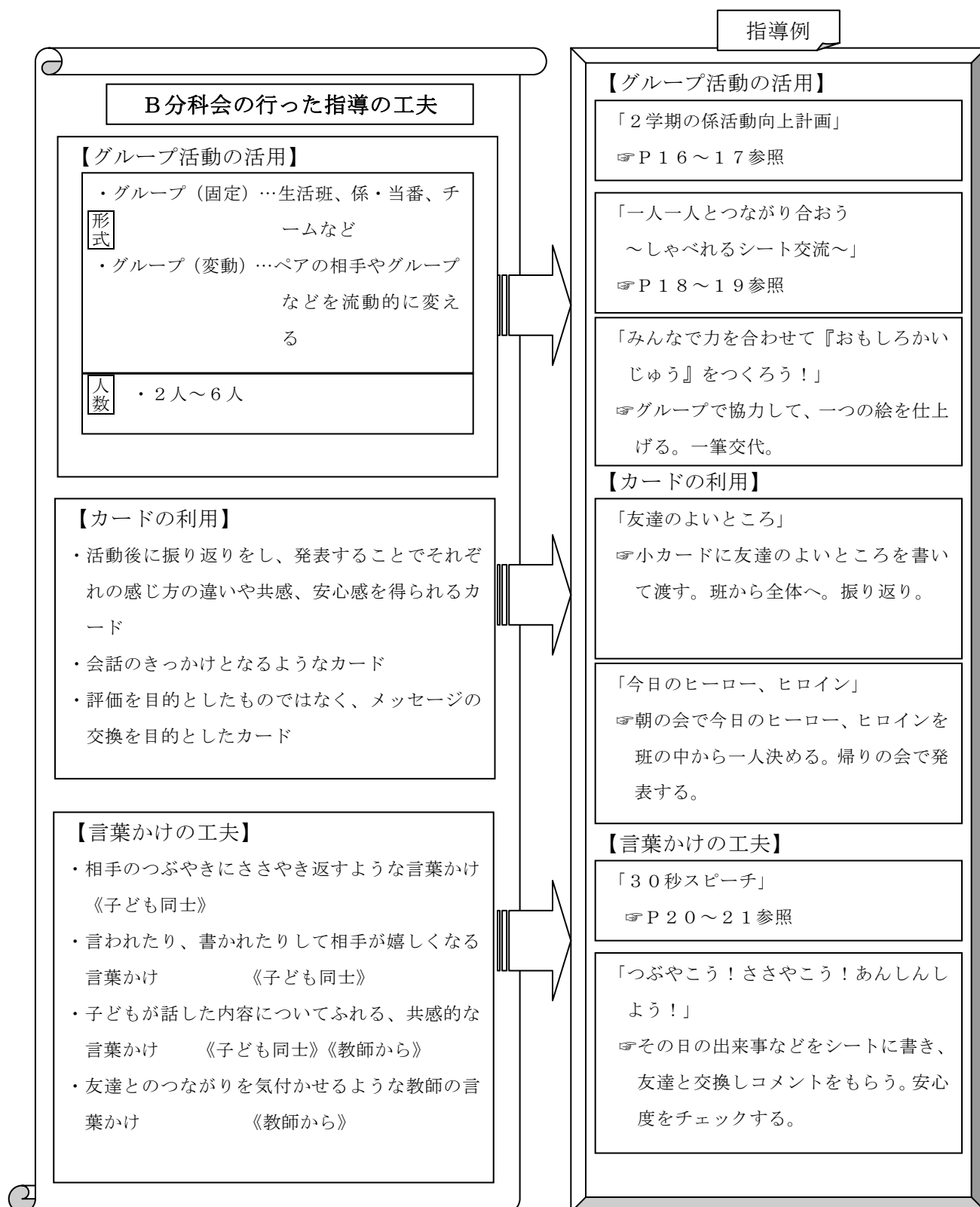
相手が不愉快な気持ちになることは言わない約束を設けることにより、安心して運動に取り組むことができた。

【中学社会】（2年・歴史）

「好きな歴史上の人物が一人一人違うのは当たり前のことであり、それを認めることが大切である」と話すことにより、自分の意見に安心感をもたせることができた。

Ⅳ B分科会の研究の内容

B分科会では、道徳、特別活動（学級活動、朝の会、帰りの会など）、及び中学校の部活動など教科以外の活動を中心に「児童・生徒に自己肯定感をはぐくむ指導の工夫」の研究を行った。



1 検証授業

事例1 小学校第3学年 特別活動（学級活動）

(1) 題材名 「2学期の係活動向上計画」

(2) 題材について

本活動では、2学期を通して、学級のために活動することを意識させた。係の仲間仕事内容を考え、話し合うことにより、意欲をもって活動に取り組めるようにした。

(3) 本時のねらい

ア 特別活動としてのねらい

学級を楽しくするために活動し、学級の一員としての所属感や連帯感を高める。

イ 自己肯定感育成のためのねらい

係ごとの話し合いを通して、自己実現と他者理解をすることができる。

(4) 指導の工夫

ア グループ活動の活用

話し合いがスムーズに進み、全員が自分の考えを述べられるようにするために、司会役を立てる。

イ カードの利用

本時の学習を振り返るために、ワークシートに自己評価欄を設ける。

ウ 言葉かけの工夫

係ごとのグループを回りながら、教師がアドバイスをしていく。児童の考えや話し合いの内容を認めることを意識して言葉かけを行う。

(5) 指導の展開（45分）

	児童の活動	自己肯定感育成の活動	留意点・工夫
導入 5分	1 本時の学習について知る クラスを楽しく、明るくする係の活動計画を立てよう。		・話し合う目的・内容を明確に示す。 ・話し合うときのルールを確認する。 ・学級目標を意識しながら取り組ませる。
展開 25分	2 係に分かれて、活動計画を立てる 3 係の名前を決める	・全員が自分の考えをもって、係ごとに話し合いをする。 ・司会役・記録役を決め、全員が考えを言えるようにする。 【他者理解】【自己実現】	・前時に各自が考えた活動内容をもとに、活動内容や係の名前、活動計画を話し合う。 ・楽しく意欲がわく名前を工夫する。
まとめ 15分	4 活動計画書を書く 5 本時のまとめをする	・話し合ったことをワークシートに書き、活動への取り組みを確認する。 ・本時の活動を振り返り、自己評価をワークシートに書く。 【自己実現】	・ワークシートに、活動内容や自分のめあてを書く。 ・本時の活動が進んだ係は、係のポスターを作る。

クラスを楽しく、明るくしよう 係活動計画書

名前 〃

一、係の名前

クルクル新聞

二、係の仕事
 一人一人新聞のきじにちがうじょうほうを
 考えてきて、それをもとにして新聞を作る

三、係のメンバー

四、自分の役わり
 じょうほうをあげる。
 4コマガを作る
 クイズをもうてる

五、話し合いをのりかえて
 ◇ 友だちとよく話し、話し合いのしだいで
 ◇ 自分の考えを話しあひだす
 ◇ クラスを楽しく明るくするための計画を立てることができた。

クラスを

一、係の名前

クリスタルクラスルーム

二、係の仕事
 かんがえをいふことがある時
 教卓で
 かんがえを係全員で
 かんがえつづける。

三、係のメンバー
 10月後半から11月後半まで

四、自分の役わり
 かんがえをつたりかべにかきたり
 します。

五、話し合いをのりかえて
 ◇ 友だちとよく話し、話し合いのしだいで
 ◇ 自分の考えを話しあひだす
 ◇ クラスを楽しく明るくするための計画を立てることができた。

(6) 考察

ア グループ活動の活用について

- ・係ごとに集まって、話し合いをした。全員が自分の考えを言うことを話し合いの始めとした。すべての児童が、自分の考えを友達に伝えることができた。これは、自己実現につながるものであった。
- ・グループ構成における人数の違いや男女比の違いにかかわらず、自分の係の話し合いにスムーズに参加することができた。



イ カードの利用について

- ・本時の話し合いをもとに、活動計画を書くためのワークシートを用いた。その最後の部分に、学習を振り返る欄を設け、自己評価した。友達と協力することができた、自分の考えを理解してもらえた、と振り返る児童が多かった。本時の学習が自己肯定感の育成につながったと考えられる。
- ・児童相互のカードのやり取りは、係活動が進んでいく中で、友達の仕事ぶりに対するメッセージを送るところで取り入れることにした。新聞の感想を伝えたり、集会の内容をリクエストしたりするメッセージを送っていた。児童が互いに認め合う姿を見ることができた。

ウ 言葉かけの工夫について

- ・教師の言葉かけとしては、一人一人の意見を大切にすもの、一度認めてから新しい視点を示してあげるものがあった。また、安心感をもたせる言葉かけで授業を終わったことが、自己肯定感をはぐくむ上で重要であった。
- ・児童同士では、話し合いの中で共感する言葉を発していた。「いいね。」「そうしようよ。」また、「〇〇ちゃんが発表するから聞いて。」というような、傾聴を促す言葉も聞かれた。これは、他者理解につながるものであった。

事例2 小学校第6学年 特別活動（学級活動）

(1) 題材名 「一人一人とつながり合おう ～『しゃべれるシート』交流～」

(2) 題材設定の理由

子どもたちに、共感し合うことのよさ、自己表現の楽しさを感じてほしい。そのためには、自分を表現しやすい“一対一の会話”が効果的である。

本実践では、会話を円滑にするために「しゃべれるシート」を用いる。それにより、学級の一人一人とつながりあい、共感し合う関係をつくることができる。

(3) 本時のねらい

ア 特別活動としてのねらい

集団の一員としての自覚を深め、望ましい人間関係を育成する。

イ 自己肯定感の育成のためのねらい

「しゃべれるシート」をきっかけにお互いの大好きなものを分かり合い、認め合うことで安心感や学級への所属感をもてるようにする。

(4) 指導の工夫

ア グループ活動の活用

学級の一人一人とつながり合うために、学級全員と一対一で会話をする。

イ カードの利用

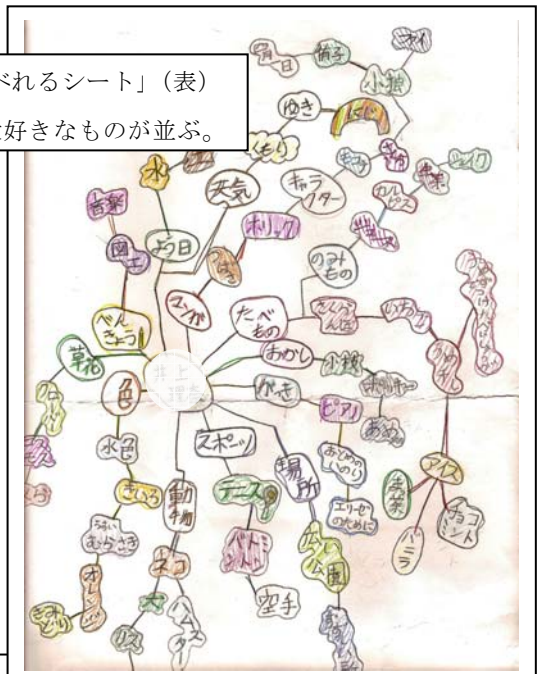
「しゃべれるシート（自分の大好きなものを書き込んだシート）」を見せ合い、会話させる。さらに相手との心の距離を縮めるために、会話の後、相手のシート裏にメッセージを書かせる。

ウ 言葉かけの工夫

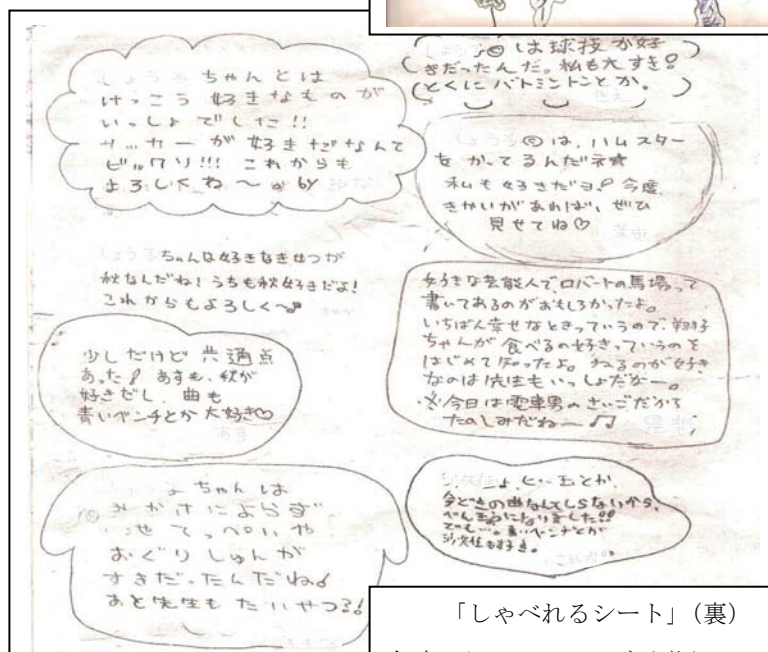
相互理解への意識を高めるために「自分との共通点を見付けよう」「自分にはない面を見付けよう」と促す。

「しゃべれるシート」(表)

自分の大好きなものが並ぶ。



1対1での会話。全員と行う。



「しゃべれるシート」(裏)

友達からのメッセージが増えていく。

(5) 指導の展開 (45分)

	学習活動	自己肯定感育成の活動	留意点・工夫
導入 2分	1 「しゃべれるシート」交流のめあてを知る。 相手とわかり合い、認め合うために行うことを再確認する。	・分り合おうとする意欲をもつ。 【相互理解】	・相手との共通点・相違点を積極的に見付けるように声をかける。
展開 21分	2 お互いに「しゃべれるシート」を見せ合う。 相手のシートを見ながら質問をしたり、それに答えたりして会話を続ける。(3分) 会話の後、相手の「しゃべれるシート」の裏にメッセージを書く。(2分) ・相手との共通点 ・自分から相手にお勧めすること 等 相手からのメッセージを読む。(2分)	・肯定的に聴く。 ・共感したことを伝え合う。 【共感】 【他者理解】 【自己表現】	・安心して話せるために、横並びに座らせる。 ・質問すると会話が弾むことを知らせる。 ・相手からのメッセージを読んだ後、少し会話を続けてもよいことを知らせる。
	3 他の相手と交流をする。(2人) (方法は2と同様)		・自己評価の5段階の基準は次の通り
まとめ 22分	4 本時の交流について振り返りをする。 学習感想カードに書く。 「自分のことをわかってもらえたか」を5段階で自己評価する。 (右の留意点を参照)	・自分のことをわかってもらえたか振り返る。 【自己表現】	自分のことを 5:よくわかってもらえた。 4:わかってもらえた。 3:少しわかってもらえた。 2:あまりわかってもらえなかった。
	5 振り返りを発表する。 これからの交流をよりよくするきっかけにする。	・振り返りを共有する。 【自己表現】 【他者理解】	1:全くわかってもらえなかった。

※ 朝や帰りの会、学級活動などで、1回に1～2人ずつ、継続的に行う。

※ 1時間授業の場合は振り返りもじっくりさせる。交流は3人程度が適当である。

(6) 考察

ア グループ活動の活用について

- ・一人一人とじっくり向き合うことで、たくさんの共通点を見付けることができた。
- ・学級全員と交流を行ったことで、普段からいろいろな友達と会話するようになった。

イ カードの利用について

- ・自分の大好きなものをきっかけに話すことで、安心して自分を表現できた。
- ・たくさん書き入れさせると、友達同士の接点が増えて会話が弾むようになった。
- ・裏にメッセージを書くことで、たとえ話が弾まなくても心理的距離が縮まった。

ウ 言葉かけの工夫について

- ・話が弾まない場合、教師がシートを見て、共通点を示すと効果的であった。
- ・裏にメッセージが書けない子には、「自分がお勧めするものを書いてごらん」と助言すると、書けるようになった。

事例3 中学校第1学年 特別活動(朝の会)

(1) 題材名 「30秒スピーチ」

(2) 題材設定の理由

学級全体の中で、自分の考えなど自信を持って表現することができている生徒が少ない。朝の会の取り組みの中で発表の機会を設け、自分の思いを他者に伝える機会を増やすことで、改善されることがあると考えた。スピーチの時間を30秒にすることで、朝学活に短時間で行うことができ、発表する生徒の負担も減らすことができる。また発表するだけでなく、返事をカードに記入することで、発表者と記入者の相互理解の深まりも期待できる。

(3) 自己肯定感育成のためのねらい

ア 自分の思いや考えを他者に伝え、自分を知ってもらう。

イ 発表者の話を聞き、共感できる点や共通点を見付ける。

ウ メッセージカードに返事を記入し、相互理解を深める。

(4) 指導の工夫

ア グループ活動の活用 <小集団から始め、大きな集団へと進めていく>

学級全体で発表することから始めるのではなく、生活班（6名程度）から活動を始める。

- ・日常的に接する機会が多い集団から始めることで、生徒の緊張が和らぐ。
- ・少人数から始めることで、発言する機会が増える。

イ カードの利用

- ・短時間で記入ができ、生徒の負担にならないように、記入欄を大きくしすぎない。
- ・記入する内容は、スピーチの評価ではなく、共感的な内容を記入させるようにする。

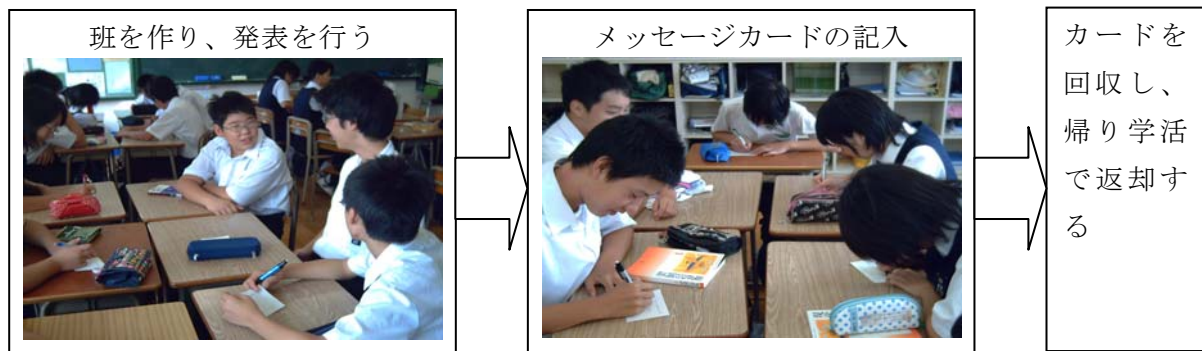
ウ 言葉かけの工夫

- ・相手の意見を受け入れ、素直な言葉で返事が書けるように促す。
- ・きちんと向き合って伝えることで、たとえそれが反対意見であっても相互理解につながることを意識させる。

(5) 指導の展開（7分）

時	生徒の活動	自己肯定感育成の活動	留意点・工夫
2分	・あいさつ、予定発表		
1分	・30秒スピーチ	・発表の仕方について学ぶ。 ・自分の思いを相手に伝える。【自己表現】 ・友達の話を聞き、共通点や共感できる点を見付ける。【共感】	・明るい雰囲気での発表ができるようにする。 ・教師も一緒にスピーチに参加し、生徒との一体感を作る。
3分	・メッセージカードの記入	・返事を記入し、相互理解を深める。 ・自分が友達に受け入れられていることを理解する。【受容】	・コメントをもらった人が不愉快な思いをしないように指導する。
1分	・あいさつ		

○「30秒スピーチ」の流れ



○メッセージカードの記入例

メッセージカード 記入者 _____ 発表者 _____ 内容 6:10 に起きて うちも朝練のため 5:40 に起きた。。。眠いけど は国際問題もしっかり考えてるぞ	メッセージカード 記入者 _____ 発表者 _____ 内容 マンガ・ゲームが好き ゲームはあまりやりません。 マンガは読みます。少年マンガ「つん」 とかも読みます。
---	--

(6) 考察

ア グループ活動の活用について

- ・小集団から始めることにより、人前で話すことが苦手な生徒も、緊張せずに取り組むことができた。
- ・回数を重ねる中で発表に慣れ、友達の前で自信を持って話ができるようになった。
- ・小集団であっても緊張して何も話せない生徒もいた。発表を行うことが負担にならないように、班単位の活動から大きな集団に活動単位を変える際には注意が必要である。

イ カードの利用について

- ・話を聞き終えたらすぐに記入を始めるなど、返事を書くことに積極的に取り組むことができた。
- ・話の特徴をとらえてコメントを記入することに慣れ、いろいろな場面で意見の交換ができるようになった。

ウ 言葉かけの工夫について

- ・友達からの返事を楽しみに待っている生徒が多く見られた。
- ・スピーチに対して、反対意見であっても自分の気持ちを記入することができた。
- ・友達のスピーチに対して質問や自分の意見を記入することで、後からの会話のきっかけになっていた。また、男女の交流も多く見られるようになった。
- ・毎日活動が行われるため、生徒の興味、関心が低くなり、「わかった」や「よかった」など、形式的な返事も見られるようになった。

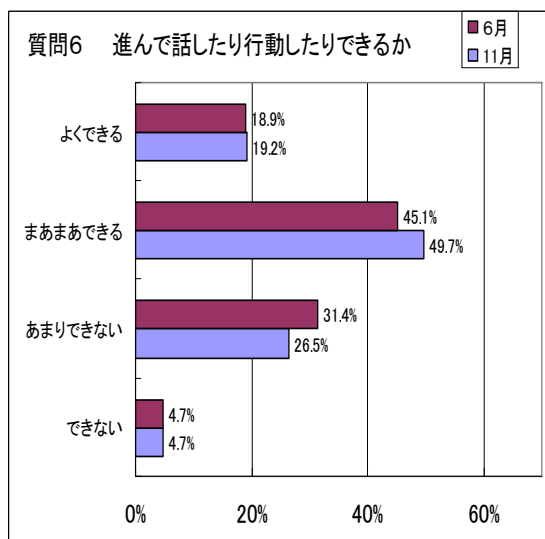
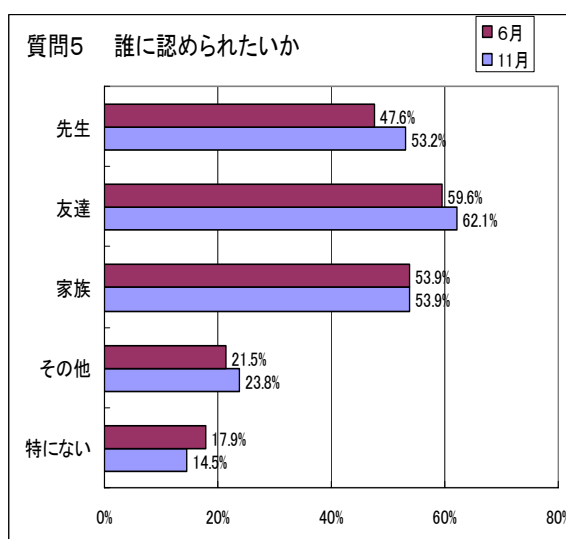
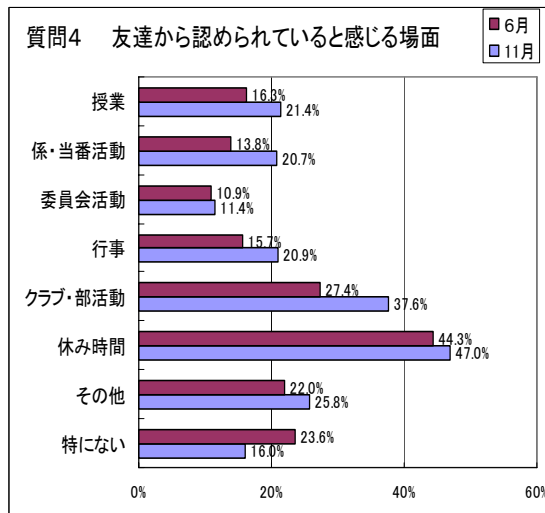
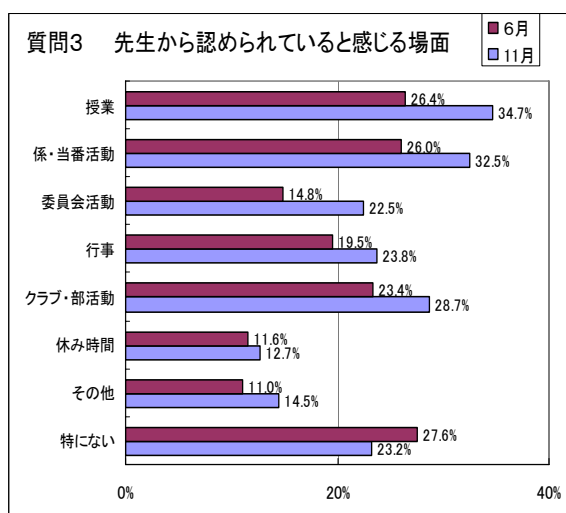
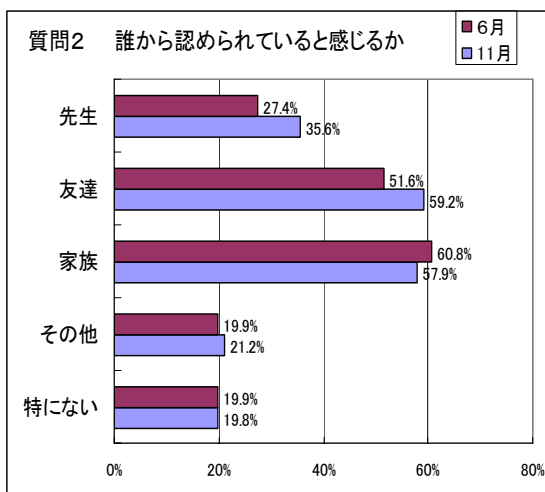
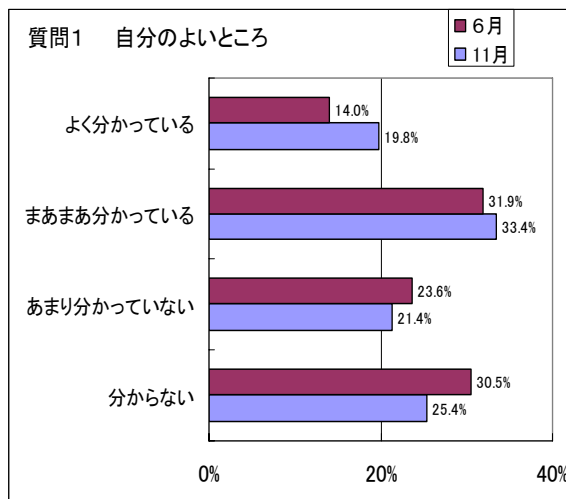
2 B分科会 その他の実践事例

	自己肯定感育成のための活動	考 察
グループ活動の活用	【小学校第5学年・道徳「おくろう、心のサーブ」】 ・生活班ごとに友達一人一人のよいところや、頑張っていることを見付けあう。その後、学級全体のよいところも発表する。	・多くの活動と一緒にいる生活班で交流したことにより、友達一人一人のよさを見付けやすかった。
	【中学校・部活動「試合後のミーティング」】 ・仲間から見て、改善点ばかりでなく優れた点を指摘しあう。	・仲間から、改善点だけでなく、よいプレーを指摘してもらったことで、子どもたちは自分のプレーに自信を持てた。さらに課題を持って、頑張って練習していこうという意欲向上につながった。
カードの利用	【小学校第2学年・学級活動「ハッピーお届け便」】 ・学級の生活班の班がえの時に、今までのメンバーにお別れメッセージを渡す。	・「また一緒になろう」「～のとき、ありがとう」などの言葉が書かれており、受け取った子は自己肯定感・有用感が高まった。
	【小学校第5学年・道徳「おくろう、心のサーブ」】 ・心のサーブカードに友達や学級のよいところや頑張っていることを記入し、発表する。	・自分のよいところを教えてもらったり、頑張っていることを認められたりして、さらに自信がついた。
	【小学校第5学年・学活「友達の名前を書こう、由来を知ろう」】 ・由来カードに自分の名前の由来を記入しておく。 ・一人一人が学級全員のフルネームを漢字で書く。 ・正しい漢字と由来を発表する。	・名前の由来を通して保護者の願いを知り、一人一人が大切な存在であることに気付くことができた。
	【中学校・部活動「試合後のミーティング」】 ・一人一人が試合終了後に反省レポートを書く。 ・ミーティングの際、ビデオ映像とあわせてレポートを見返しながら、自分のプレーを振り返る。	・自分のプレーを画像で見ることで、客観的に自分を振り返り、課題を把握するとともに自信をもつことができた。
言葉かけの工夫	【小学校第4学年・特別活動「交換日記」】 ・子どもたち一人一人と交換日記を実施した。日記に書かれていることを読んで、教師から共感的なコメントを返していく。さらに、一言言葉を交わしながら日記を返すようにした。	・普段なかなか自分から担任に話しかけることができない子どもでも、「日記」を通して会話し、親しくなることができた。 ・普段の何気ないちょっとした場面での会話にもつながった
	【中学校・部活動「試合後のミーティング」】 ・プレー中の様子を画像を見て、弱点やこれからの課題、優れたところを確認させ、アドバイスをする。	・失敗を確認した上で、それを次に生かしていくことが大事なのだという事に気付き、意欲が向上した。

V 研究事後調査

調査結果

自己肯定感に関する子どもの変容を検証するため、6月の調査を再度11月に実施した。
下のグラフから、自分自身に対する肯定的な見方が深まったことが分かる。



VI 研究のまとめ

本部会では、研究主題「児童・生徒の自己肯定感をはぐくむ指導の工夫」に迫るために、相互理解を大事にした指導の工夫が不可欠と考えた。そして、次の3点を具体的な指導の手だてとして研究を進めてきた。

○グループ活動の活用

○カードの利用

○言葉かけの工夫

以下23ページの調査結果をふまえて、成果と課題について述べる。

1 研究の成果

(1) グループ活動の活用

- ア 小グループでの活動により、リラックスした雰囲気の中で、伸び伸びと自己を表現したり、きちんと相手を受け止めたりすることができた。
- イ 交流しながら、気持ちを伝え合ったり、作業を共有したりすることができた。
- ウ 友達と関わり合うことの楽しさを知り、親交を深めることができた。そして、互いを理解し合い、大切に思う気持ちをもつことができた。

(2) カードの利用

- ア 自分の意見や気持ちを書き込んだり、相手に伝えたりするカードは、内容をじっくりと検討しながら自分の意見や気持ちを書き込むことに効果的であった。
- イ カードに書かれた文章を受け取る側がじっくりと読み味わうことができ、相手の気持ちをきちんと理解したり、尊重したりすることができた。
- ウ 意見や気持ちを話して伝えることにやや消極的な児童・生徒が、カードを使うことによって積極的になる場面が多く見られた。

(3) 言葉かけの工夫

- ア 「できた、できない。」を評価するのではなく、頑張ったこと褒め、つまずきを受け入れ、多様な考えを認めて、児童・生徒の気持ちに寄り添う教師からの言葉かけが効果的だった。
- イ 賞賛的、受容的、共感的な言葉を教師や友達からもらうことによって、児童・生徒は自分が認められていることに気付き、自分に対する自信を深めることができた。
- ウ 相手を思いやった言葉を互いにかけて合うことで、友達同士の信頼感が高まった。

2 今後の課題

- (1) 実践研究を通して、児童・生徒の自己肯定感は高まった。しかし、次のような児童・生徒も少なからず存在する。この子どもたちに対する指導の充実がさらに必要である。
 - 自分のよさがわからない児童・生徒
 - 誰からも認められていないと感じている児童・生徒
 - 認められたい人がいない児童・生徒
- (2) 教科、道徳、特別活動、部活動など、それぞれ単独の分野だけで子どもたちの自己肯定感を育成することは難しい。教育活動全体にわたり計画的、意図的に行う必要がある。
- (3) 子どもの自己肯定感の変容の度合いは、小学校と中学校で差があった。教科担任制である中学校では、学年や学校全体で組織的な自己肯定感の育成を目指す必要がある。

平成 17 年度 教育研究員名簿（ 教育課題 ）

	区市町村名	学 校 名	氏 名
A 分 科 会	中 野 区 足 立 区 国 分 寺 市 豊 島 区 葛 飾 区 多 摩 市	大 和 小 学 校 梅 島 小 学 校 第 七 小 学 校 明 豊 中 学 校 新 小 岩 中 学 校 落 合 中 学 校	由 木 正 浩 落 合 由 美 子 三 柴 祐 子 ○ 藤 岡 均 佐 藤 一 男 齊 木 伸 郎
B 分 科 会	新 宿 区 大 田 区 北 区 八 王 子 市 福 生 市 世 田 谷 区 東 久 留 米 市	花 園 小 学 校 田 園 調 布 小 学 校 滝 野 川 第 二 小 学 校 由 木 中 央 小 学 校 福 生 第 七 小 学 校 上 祖 師 谷 中 学 校 東 中 学 校	滝 川 久 美 子 比 金 敏 彦 ◎ 清 水 勝 一 柳 澤 尚 宏 星 彰 山 村 恵 子 峯 川 周 一 郎

◎世話人 ○副世話人

担当 東京都教職員研修センター統括指導主事 宇田 剛

平成 17 年度教育研究員研究報告書	
東京都教育委員会印刷物登録 平成 17 年度 第 12 号	
平成 18 年 1 月 16 日	
編集・発行	東京都教職員研修センター
所在地	東京都目黒区目黒一丁目 1 番 14 号
電話番号	03-5434-1974
印刷会社名	株式会社 今 関 印 刷